



# 2月園だより

令和5年度

段原みみよう保育園



先日、大阪府豊中市にあります「あけぼの幼稚園」に視察に行っていました。あけぼの幼稚園は、何かができる、数・文字がわかる、何かを知っているということよりも、子どもの内面を大切にし、「非認知能力」の基礎を大切に育むことを目指し、子どもを中心にした保育を行っている園です。子どもたちがやりたいことをしっかりと主張し、3階建ての園舎内や園庭で縦横無尽にあそびが展開され、園庭には焚火がたかれ、暖をとるためなのか子どもたちが集まって、火の番をする先生と語り合い、そこで焼かれる一口サイズのお餅を砂糖醤油をたっぷりつけて、頬張る子もいました。興味のあることや好きなことに貪欲に、没頭して取り組むあけぼの幼稚園の子どもたちの姿に圧倒されながら、施設内をくまなく歩き、たくさんの心惹かれる、驚きいっぱいの環境も見ることができました。例えば、職員手作りの家具や遊具…これらは、子どもたちの興味から先生たちが考案し、子どもたちの目の前で作成されたそうです。物が作られていく過程、仕組みを見るのが学びになり、子どもたちの好奇心もさらに高まっていくのでしょう。園内は決して、整理整頓され、危険なしの環境ではなく、そうであるからこそ子どもたちが自分たちで過ごしやすく工夫し、そして小さなけがはあっても大きなけがにつながらないように、自分たちで考え、判断して過ごしているようでした。

当園も保育のスタイルを少しずつ変化させ、子どもたちが好きなこと、やりたいことが存分にできるように、子ども自身が考えて行動することを大事にし、そしてそのような乳幼児期を経た子どもたちが、将来、創造性豊かな大人となり、これから到来するAI=人工知能の時代でも、幸福感を十分に感じながら生活できると信じて保育をしてまいります。今回の視察で、みみよの保育理念『感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子に』のもと、同年齢、異年齢のたくさんの友だちや先生たちとふれあいながら、人と関わることが大好きな子へ、そして自分で考えることに楽しさが感じられる子へ…段原みみよの子どもたちはこんな子どもたちになってほしいと、より明確に、強く感じた次第です。

便利すぎる環境や考えずともなんでも教えてくれたり、やってくれる大人から脱却し、子どもたちが失敗しても、遠回りしても、試行錯誤しながら、「自分で考えたんだ、自分でやったんだ」という手ごたえを感じられる毎日であるよう、職員一同、今一度、保育について学んでいく所存です。そして、もっともっと一人ひとりの子どもたちの「心の声」に気づけるよう、努力してまいります。ご家庭でも、大変お忙しいとは思いますが、お子さんの甘えたい、やりたい、見たい、触ってみたい、知りたい、もっと頑張りたい…そんな気持ちが満たされる関わりをしてあげてほしいと思います。そして、職員にもお子さんの「心の声」のエピソードをお聞かせください。年度末にかけて、個人懇談やおひさまルームなど、日頃の様子をお話いただける機会を設けています。ぜひご都合を調整していただき、奮って園にお越しくださいますよう、どうぞ、どうぞお願いいたします。

さて、12月から延期されていた生活発表会が1月中旬にあり、幼児クラスの子どもたちは、大きく成長した姿を見ていただきました。特に年長5歳児は、自分たちだけが楽しいだけでなく、おうちの人にも喜んでもらえるように、遊戯・劇・けん玉チームに分かれ、子どもたちがアイデアをどんどん出し、途中で起きた数々のトラブルも、みんなで話し合っ解決しながら進めていました。当日は、ドキドキしたり、興奮したり、いつも以上にはりきってみたりなど、ステージの上で感じたこと、終わった後に思ったことは一人ひとり異なるでしょうが、大勢の人の前で、自分が頑張ってきたことを見てもらったこと、スポットライトの当たるあの緊張感たっぷりの場所で披露できたということは、大きな自信になったのではないかと思います。年長児さんはあと2か月で卒園ですが、楽しくて仕方ないこと、やりたいことがいっぱいの日々であるといいなと思います。

園長

